

地域枠学生を育てる — 高知県・高知大学の取組み

高知大学 医学部家庭医療学講座 教授
医療学系医学教育部門
高知地域医療支援センター 副センター長

阿波谷 敏英

【COI開示】

発表者は高知県の寄附講座教員です

今日のおはなし

- 地域枠学生のサポート
- 地域医療を体験しよう
- 地域の医療文化を創る



お前、誰やねん？

- 1984年(18歳) 自治医科大学入学
- 1990年(24歳) 医師国家試験合格 高知県立中央病院で初期臨床研修
- 1992年(26歳) 大月町国保大月病院
- 1993年(27歳) 梶原町立松原診療所長
- 1995年(29歳) 梶原町立国保梶原診療所(現・梶原病院)
- 1996年(30歳) 高知県立中央病院放射線科
- 1997年(31歳) 梶原町立国保梶原病院院長・同保健福祉支援センター所長
- 1998年(32歳) 梶原町保健福祉支援センターゼネラルマネージャ
- 2005年(39歳) 高知医療センター総合診療科長
- 2006年(40歳) 高知医療センター総合診療部長
- 2007年(41歳) 高知大学医学部家庭医療学講座教授
- 2018年(52歳) 高知地域医療支援センター 副センター長(兼務)

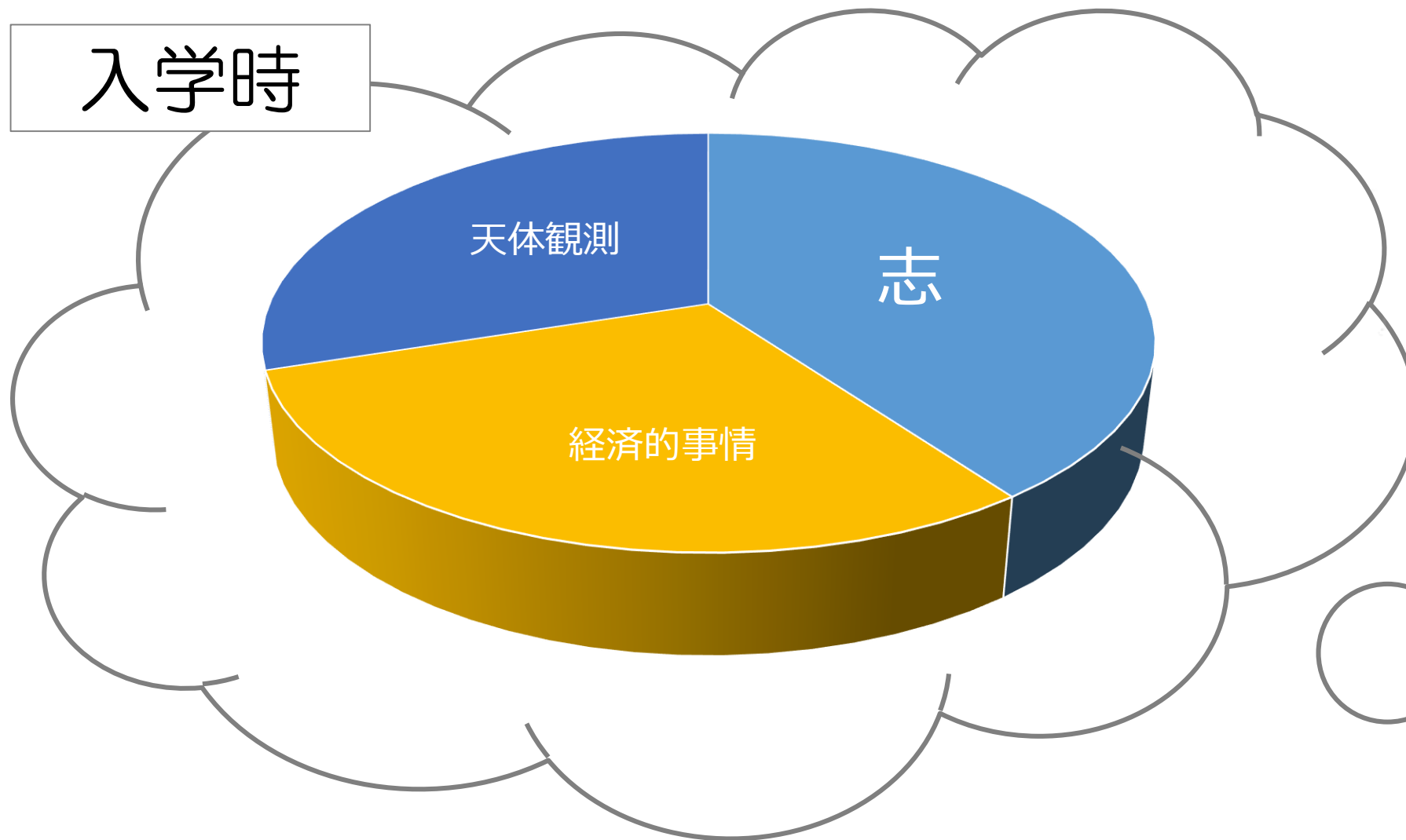
入試面接では・・・

本学を志望する
理由は？

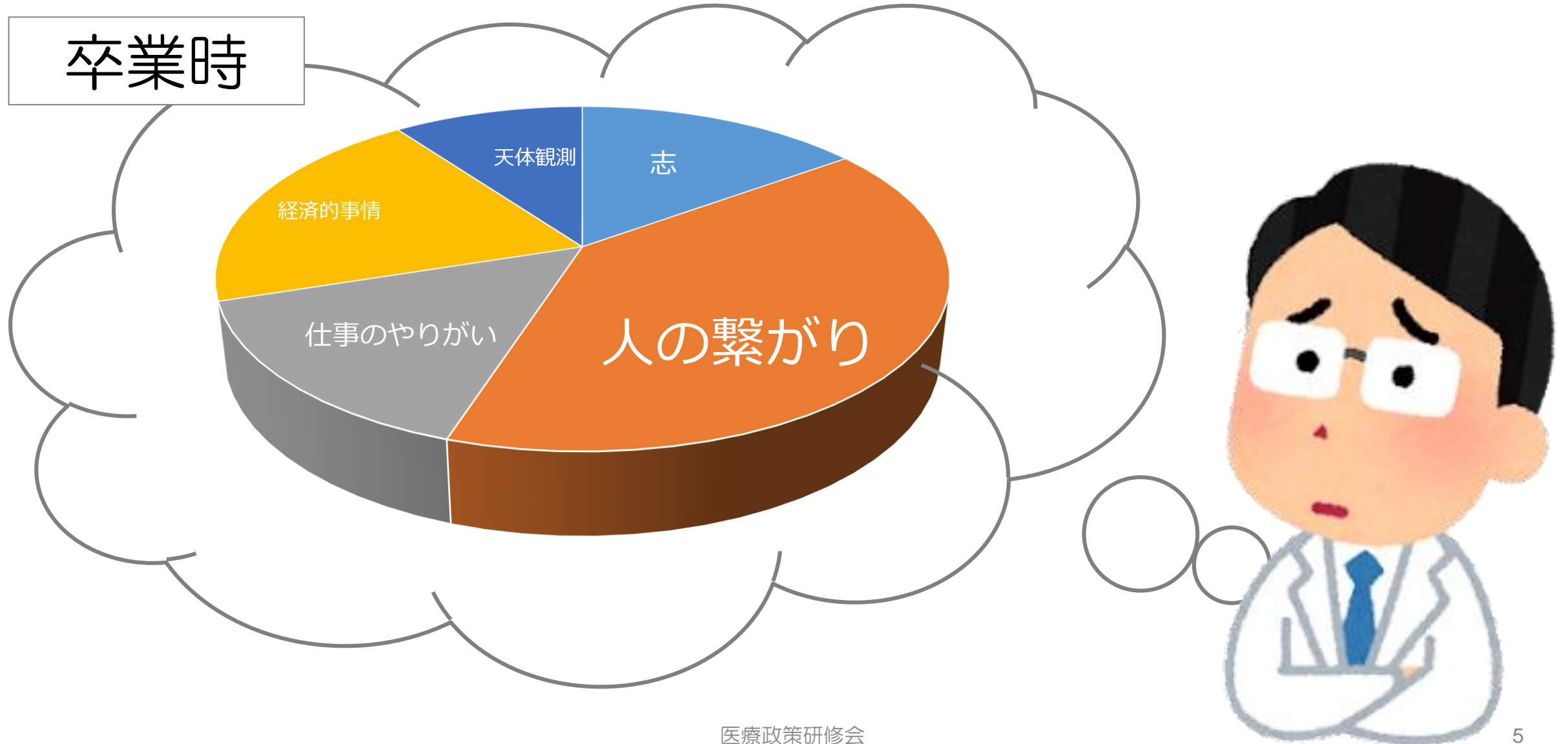
地域医療を学んで地域に
貢献する医師になりたい
と思って・・・



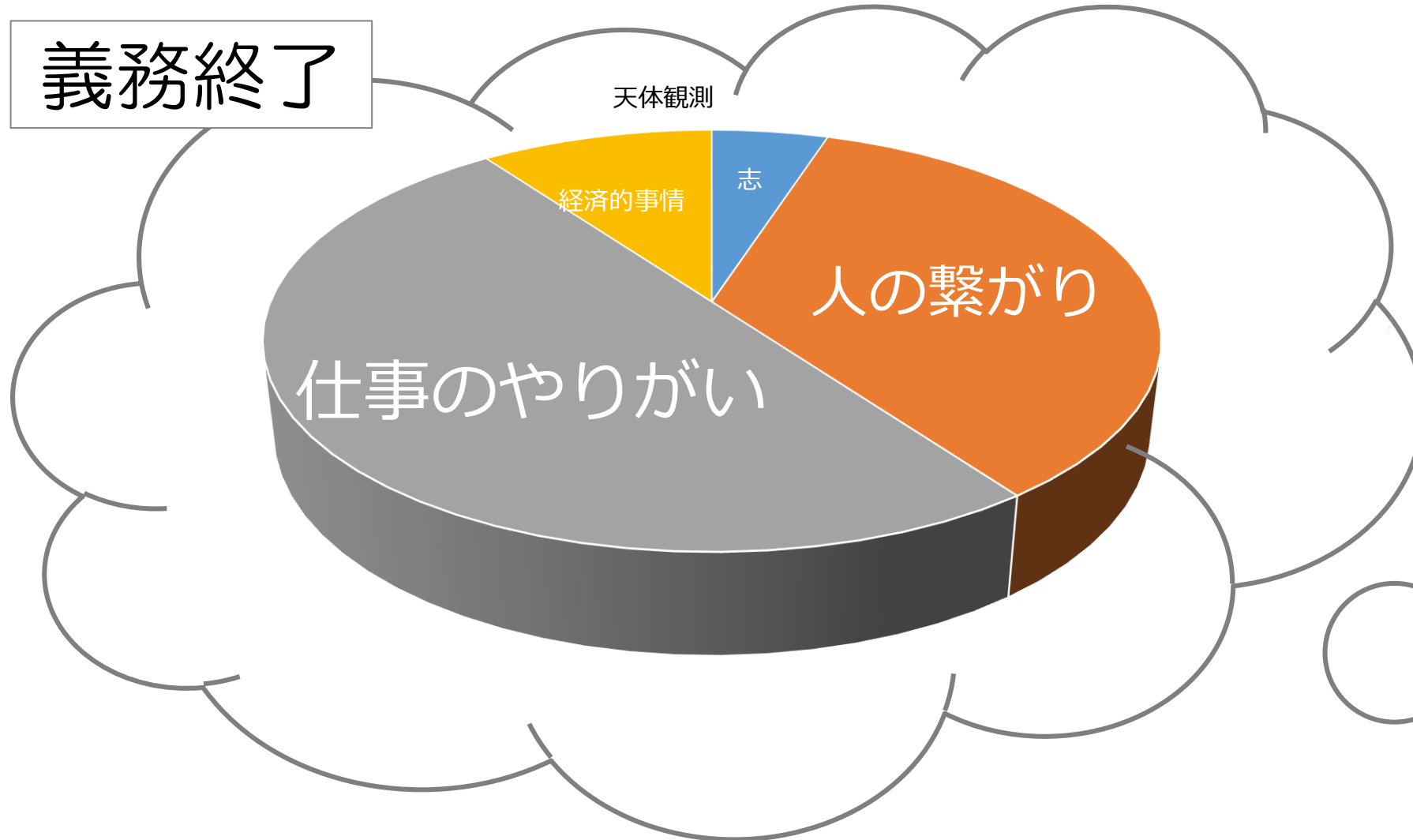
なぜ、義務を履行できたか？



なぜ、義務を履行できたか？



なぜ、義務を履行できたか？



地域枠制度

- 選抜方式

- 地域枠 学校推薦型選抜Ⅱ 20人 四国瀬戸内枠
- 大学独自枠 一般選抜（前期日程） 5人 出身地を問わない

- 高知県医師養成奨学貸付金制度

- 対象者

- 地域枠、大学独自枠入学者
- 希望者（高知大学、他大学）

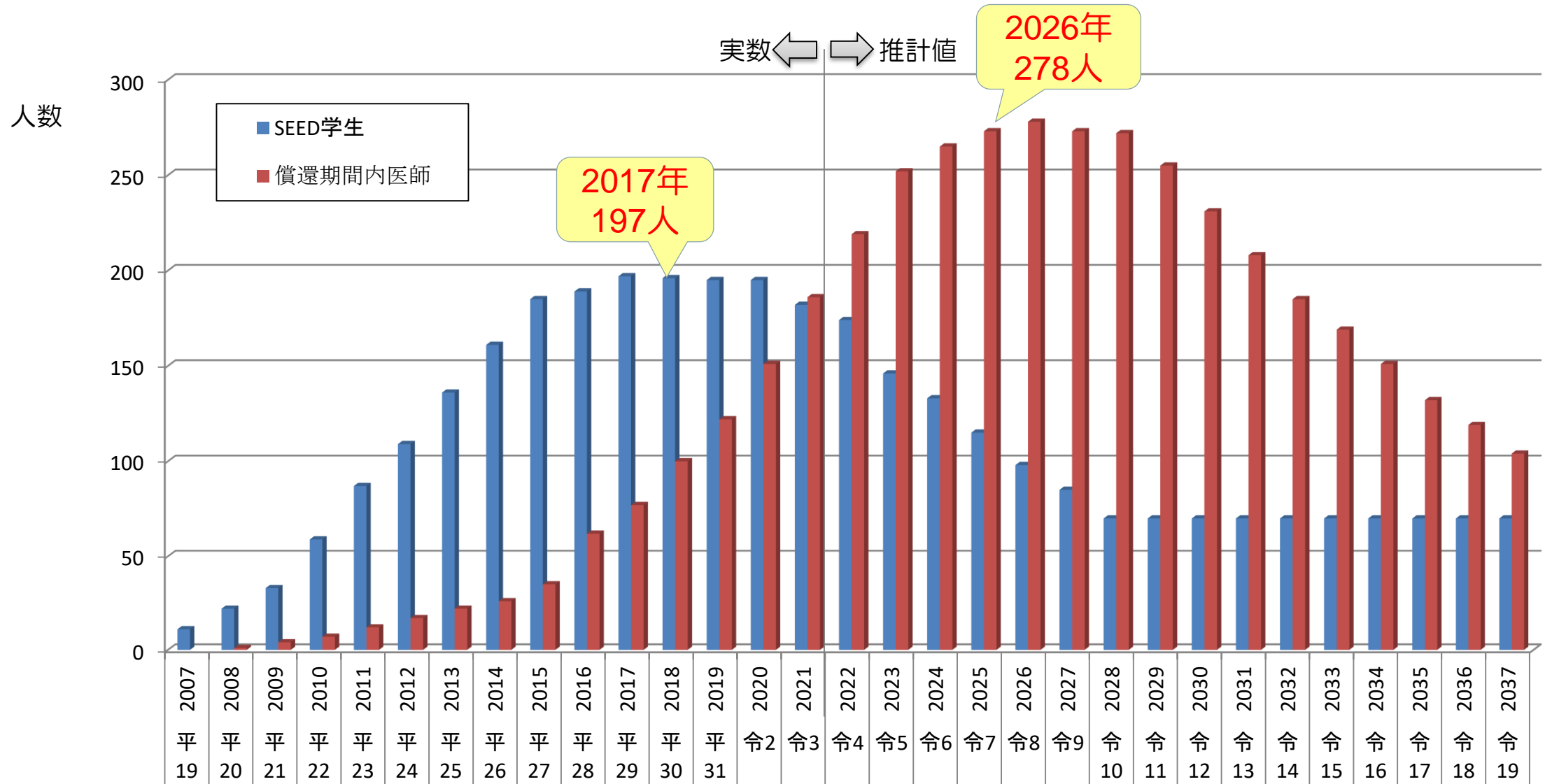
- 支給額月額15万円・特定診療科目*加算：月額8万円

*産婦人科、小児科、麻酔科、脳神経外科、外科

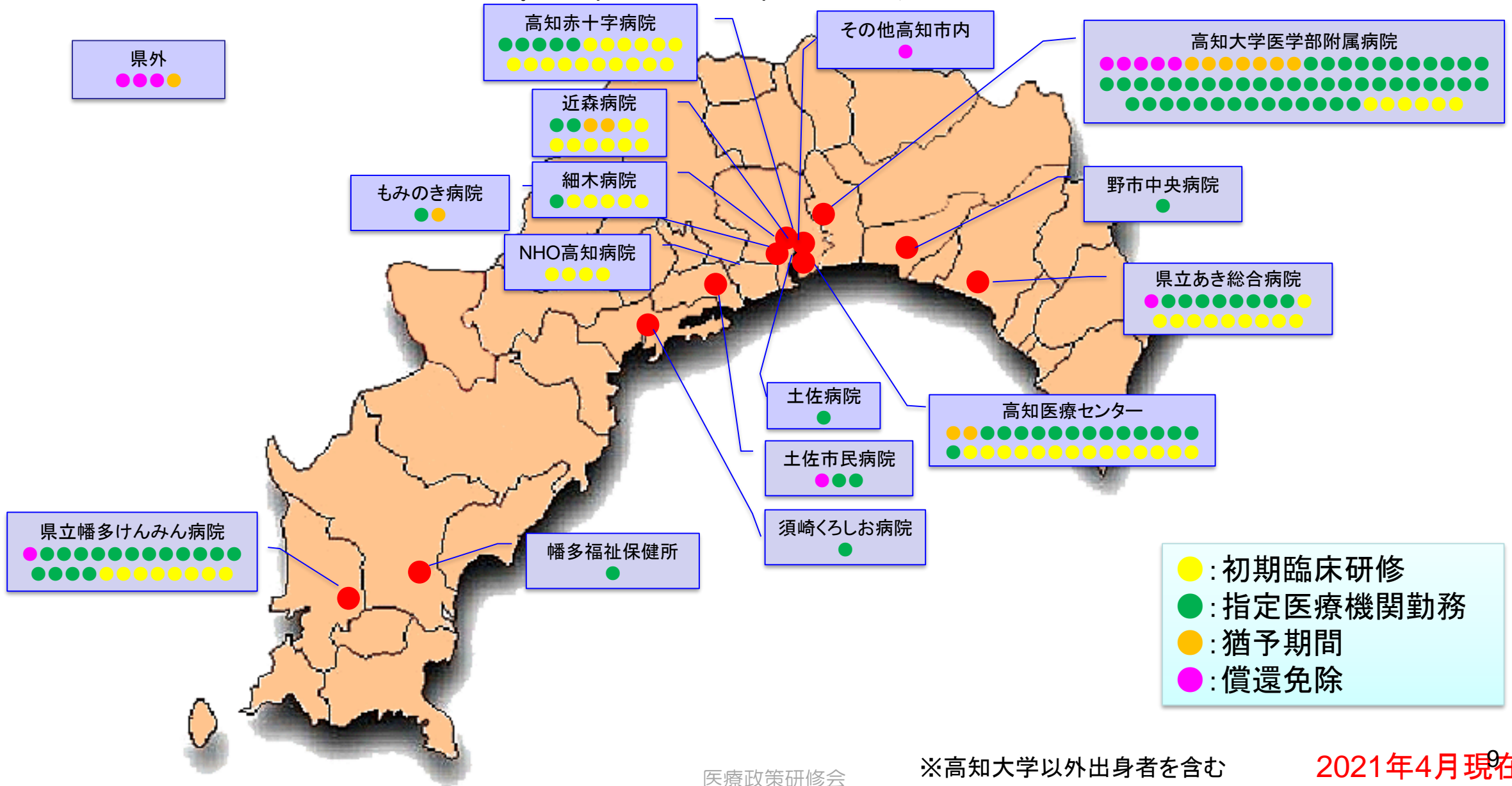
- 償還免除要件

- 卒業後、高知県内の臨床研修病院で初期臨床研修
- 指定医療機関等で医師として貸与を受けた期間の1.5倍に相当する期間勤務

SEED学生・卒業生の推移

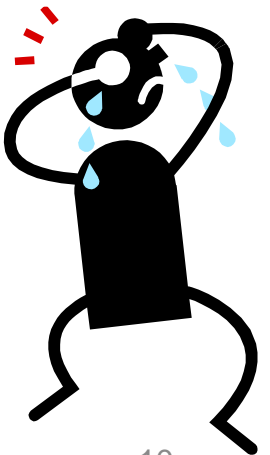


SEED卒業医師の動向（勤務地）



奨学金では人の心は縛れない

- 本当に適切な学生を選抜しているか？
- 選抜した学生を丁寧に育てているか？
- やりがいのある仕事ができているか？



1. はじめに

近年の地域医療崩壊への対応策として各都道府県で医学部入学定員増、地域推薦枠制度が導入されています。本学も先般、平成21年度地域推薦枠9名の合格者を発表したところですが、彼らの将来に期待をしたいと思います。

他方で、本学では先進的な取り組みとしてAO入試が既に行われています。AO入試でも「高知県の地域医療に貢献する強い意欲を持つとともに、卒業後は高知県内の地域医療に貢献することができる者」を選抜しています。この3月に卒業するAO入試の学生(以下、AO学生と記述します)は、「高知県の地域医療に貢献する」とまで限定した条件ではなかったようですが、少なからず県外に流出するという事態も起こっており、あとに続くAO学生の動向に影響を与えるのではないかと危惧しています。

地域推薦枠の学生(以下、地域枠学生と記述します)が将来、高知県の地域医療に貢献するためにも考える問題があると感じ、僭越ながら私見を述べさせていただきます。

2. 海外の事例から

非都市部の医療確保のために、医学生に財政的な援助をおこなうことは日本のみならず海外でも実践されてきております。米国のNHSCでは30年以上の歴史がありますが、この中では単なる財政的な支援では地域のニーズにマッチした医療人は養成できないことが反省されています。地域に定着するためには、①入学選抜で地域親和性を持った学生を選抜すること、②学部教育で地域医療教育をおこなうこと、の二点の重要性が指摘されています。

3. 地域推薦枠の問題

地域枠学生にとってみれば、漠然とした将来に対する不安があります。これは海外での事例でもそうですし、本邦においても初期の自治医科大学の学生、先行する他大学の地域枠学生にも共通して言えることです。

地域枠学生では、自分たちのアイデンティティを確保しモチベーションを保つようにすべきと考えます。さもなければ、彼らがマイノリティとなりコンプレックスを持ったり、将来を制限されているようなネガティブな意識を持ってしまったりする危険性を孕んでいます。今から彼らのケアをしておかないと卒業時点では既に遅きに失してしまうのではないかと危惧しています。

本学では地域枠学生用の特別なカリキュラムを準備してはおりません。むしろ、特別なカリキュラムをおこなうと他の学生から区別してしまうことにもなり彼らをマイノリティにしてしまう可能性もあります。地域医療は地域枠の学生のみが担うのだという誤ったメッセージを学生全体に伝えてしまうことにもなりかねません。地域医療教育は学生全体に行い、並行して高知県の特色を生かした課外活動を準備し、地域枠学生には優先して参加できる権利を有するようにする方が望ましいと考えます。何よりも大学として彼らの立場で考え、彼らをサポートする体制があること、と考えています。

4. 提案事項

以下の3点を提案したいと思います。

1) 地域推薦枠学生のケア

残念ながらアドバイザー教員制度が有効に機能しているとは言い難い現状があります。アドバイザー教員を事務的に割り当てただけでは限界がありますし、教員によっての意識の差があることも事実です。現時点でも、どの学生がAO学生であり、地域枠学生であるかについて知っている教員がいるのでしょうか。アドバイザー教員に会ったことがないという学生もいます。

地域推薦枠を先行しておこなっている札幌医科大学では入学式の直後に地域枠学生を学長室に集めて学長自ら「君たちに地域医療のリーダーになってもらうことを期待している」という旨の訓示をされるそうです。これにより学生たちは自分たちに課せられたのが義務ではなく、期待であることを認識しモチベーションがあがっていると聞きます。

少なくとも地域推薦枠、可能ならばAO入学の学生についても、そのことを理解した教員にアドバイザー教員を担当させ、彼らの悩みを早く捕捉することをお願いしたいと思います。地域推薦枠の学生を担当するアドバイザー教員を固定することにより、彼らに適切なアドバイスができるようになります。また、地域推薦枠学生の学年間のピアサポートも期待できます。さらに担当する教員を含めて、例えば月1回でも集まって懇談する場があればいいと思います。

地域枠学生のアドバイザー教員は、低学年と高学年で担当を変えるのではなく、低学年から卒業まで臨床系の教員が一貫して担当することが望ましいと考えます。それは、将来の彼らのキャリア形成まで支援するということを視野に入れていることは申すまでもありません。

2) 地域枠学生の課外活動

地域枠学生は高知県の奨学金を受給することが前提です。この奨学金制度にエントリーしているのは、地域枠学生に限らず、一般入試の学生、AO学生も居るようです。高知県へき地医療協議会で行われる夏季へき地医療実習でこれらの学生に実習を受けるように勧奨しています。しかし、奨学金を受給する学生の増加が予想されること、地域推薦枠が必ずしもへき地を想定したものでなく特定診療科を対象とした奨学金を受給している学生も居ることを勘案すると、問題があることをご理解いただけたらと思います。

また、当家庭医療学講座で家庭医道場を開催し、看護学科学生、学外者も対象に含んでおり、好評を博しております。地域推薦枠の学生に家庭医道場参加を義務付けるというご意見もあるかもしれませんが、家庭医道場の一回の参加者が平均30名でありキャパシティが不足していること、また地域医療に興味を持つ他の学生の研修機会を減らすことになること、先述のように地域推薦枠が必ずしもへき地医療のみを対象としていないこと、など問題があることはご理解いただけたらと思います。

例えば、地域枠学生を夏休みなどに幡多けんみん病院を実習場所として産婦人科、小児科の研修をおこない、地域で勤務する先輩医師の姿を見せることも非常に有効な課外活動になると考えます。もちろんAO学生なども対象にしていいと思います。

こうした取り組みを高知県医師確保推進課とも協調しておこなっていただきたいと思っています。

3) 地域医療教育ワーキンググループ(仮称)の設置

上記1)、2)を実効性のあるものにするためには、何らかの組織が必要と思います。

学務委員会、医学教育創造推進室、医学教育担当専任教授等との連携は前提として必要と思いますが、地域医療教育ワーキンググループ(仮称)を作っただけでは、1)のアドバイザー教員、2)の指導にあたる医師を想定しています。地域卒学生たちのよきメンターになるためには、中堅クラスの意識の高い教員が適任と考えております。

5. 最後に

私のような若輩者が意見を申し述べることは大変、僭越であることは承知しております。しかし、私なりに現状に憂慮しており、主旨をご理解くだされば幸いです。私見ながら、高知大学として「どのような医療人を育てるのか？」ということが正に問われていると思いますし、この機会に積極的な取り組みをおこなうことは、地域推薦卒のみならず全体の帰学率向上、県内定着率の向上につながるものと信じております。ご理解をいただければ幸いです。

地域に貢献する人材の育成

地域親和性の高い入学生を選抜

地域医療教育の充実

ロールモデルの提示

キャリア形成の支援

高知大学・高知県の取組み

- 奨学金制度説明会（オープンキャンパス、入学時）
- 入学直後の医学部長訓示
- 地域医療実習の実施
- 知事との意見交換会
- 飲ミニケーション
- 学生との面談
- 定期的な情報共有



キャリア形成プログラム

- キャリア形成プログラム

- 大学、県内医療機関と連携し、19基本領域、42プログラム

YMDP 研修プログラム

検索



- キャリア形成卒前支援プラン

- 卒前支援プロジェクト

2021/12追加



SEED

- 種 …… 未来の高知に花を咲かせる種を蒔こう
- シード…… 率先して高知の医療に関わろう



平成 27 年度 知事と高知大学医学生との意見交換会

地域枠新入生と医学部長の懇談会

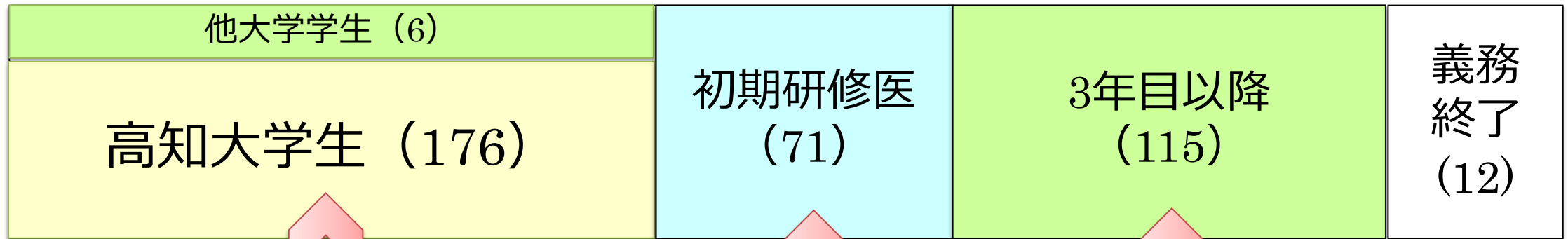


2012/04/16

SEED交流会



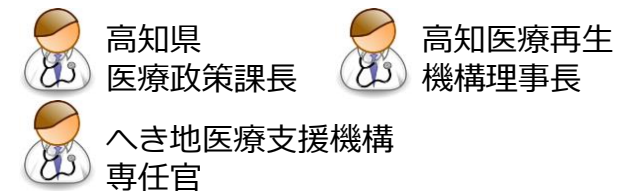
SEED学生・卒業生の支援



地域枠学生等「ハ」イ「-WG

高知地域医療支援センター

高知県医療政策課
高知医療再生機構



地域医療支援センター事務担当者会 (毎月)

情報共有

協議

高知県医師養成奨学資金貸付制度等運営会議 (年1回)

今日のおはなし

- 地域枠学生のサポート
- 地域医療を体験しよう
- 地域の医療文化を創る



地域医療教育と担当部署

	学年	科目名	家庭医 療学	総合診 療部	公衆衛 生学	地域医療 支援センター
正 課 ・ 必 修	1年	EME初期臨床医学体験	◎	○		
	3年	地域医療学	◎			
	4年	社会医学演習			◎	
	5年	ファミリー・ケア/地域医療学実習	◎	◎	◎	
	5年	総合内科実習		◎		
	6年	臨床実習Ⅱ	○	○	○	
課 外	全	家庭医道場	◎			
	SEED	幡多地域医療道場	○			◎
	SEED	安芸地域医療道場	○			◎

高知県の地域医療を知るために

三次医療機関



二次医療機関



一次医療機関



EME

EME

クリニカルクラークシップ

高知県地域医療夏期実習

幡多地域医療道場・安芸地域医療道場

家庭医道場

地域医療実習等 (5、6年生は対象外)

4年生まで、いずれかの実習を年1回以上受けて、レポートを提出

	実習名称	時期	対象者	主催者
①	高知県地域医療夏期実習	8月	SEED (他大学を含む) 自治医科大学学生	高知県へき地医療協議会
②	幡多地域医療道場	8月	SEED (他大学を含む)	高知地域医療支援センター
③	安芸地域医療道場	3月	SEED (他大学を含む)	高知地域医療支援センター
④	家庭医道場	5、11月	医学科、看護学科一般	家庭医療学講座
⑤	その他自主的な実習			

①高知県地域医療夏期実習

中央 高知大学

安芸

高幡

幡多

自治体病院 8施設
 国保診療所 6施設
 民間病院 3施設

①高知県地域医療夏期実習



説明会（7月）
幡多地域医療道場と合同
希望調整し行先決定（7月末）



高知駅集合（8月●日(木)朝）
交通費支給、県担当者挨拶
公共交通機関で目的地まで移動



各医療機関で実習
（8月●日(木)、○日(金)）



高知市内まで移動、グループワーク、報告会（8月▲日(土)）
懇親会、解散 後日、レポート提出



医療政策研修会

② 幡多地域医療道場



自治体病院	3施設
民間病院	3施設
民間診療所	1施設

② 幡多地域医療道場



貸切バスで大学出発
(8月●日(月))

幡多地域の医療に
ついての講演

施設見学

説明会 (7月)
高知県地域医療夏期実習と合同
希望調整し行先決定 (7月末)



幡多地域医療シンポジウム



各施設・診療科に
分かれて終日実習
(8月○日(火))



医療政策研修会



意見交換会/懇親会

貸切バスで大学帰着
(8月△日(水))
後日、レポート提出²⁹



③安芸地域医療道場



④家庭医道場

13年間で26回開催

安芸郡馬路村

12回

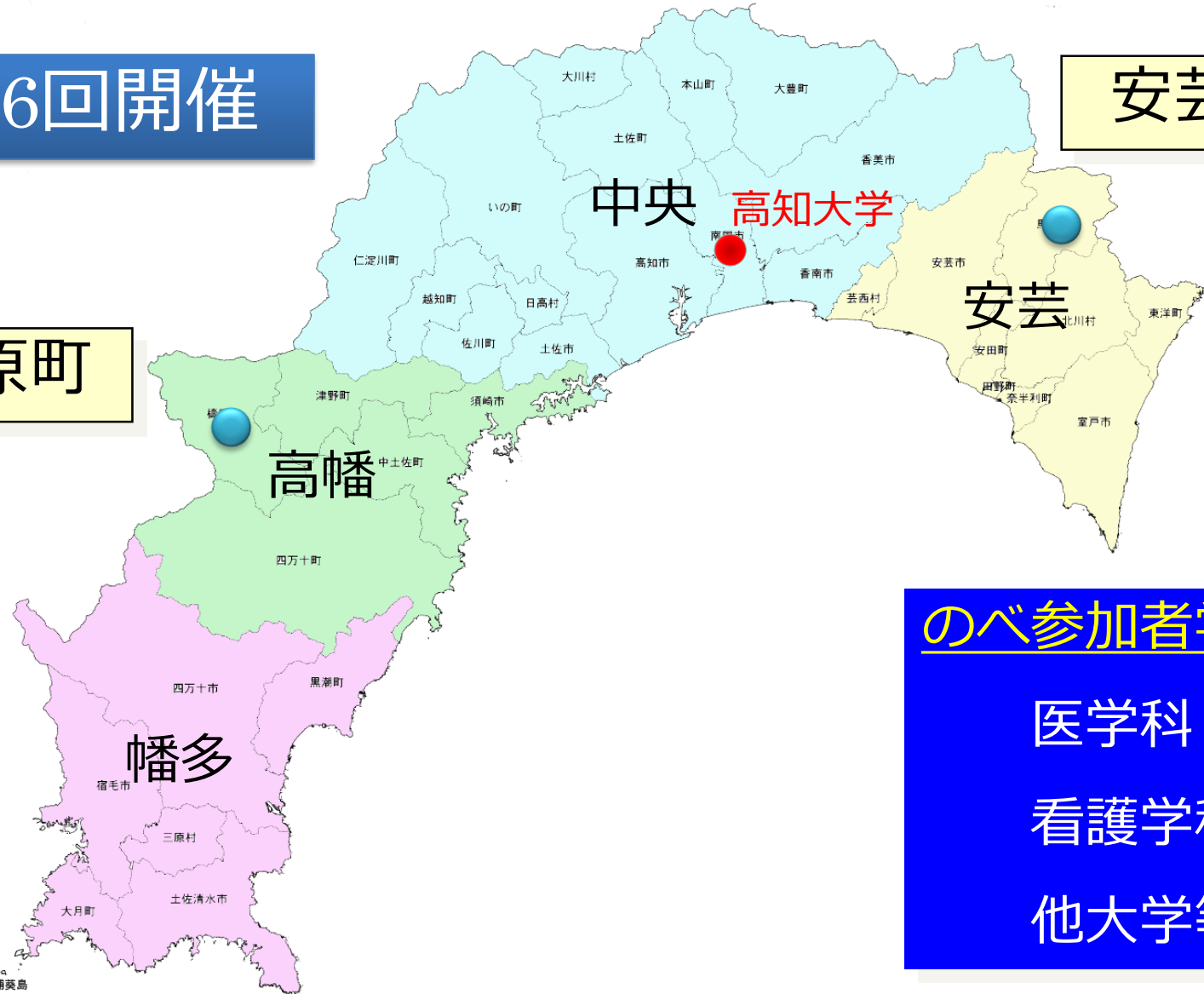
高岡郡栲原町

13回

高幡

宿毛市沖の島

1回



のべ参加者学生 871人

医学科 664人

看護学科 195人

他大学等 12人

家庭医道場

- 目的 地域に赴き、地域の人々と接し、地域を知る
 - 対象 医学科および看護学科学生
 - 日程 年2回、1泊2日の課外活動
 - 特長 数名の学生実行委員による企画
- ★高知県・市長会・町村長会の寄附金を使わせていただいています



フィールドワーク



馬路村長



講演

健康教室



住職さん



沖の島へき地診療所所長





そば打ち

語り合う



修了証書



さよならー
また来まーす♪



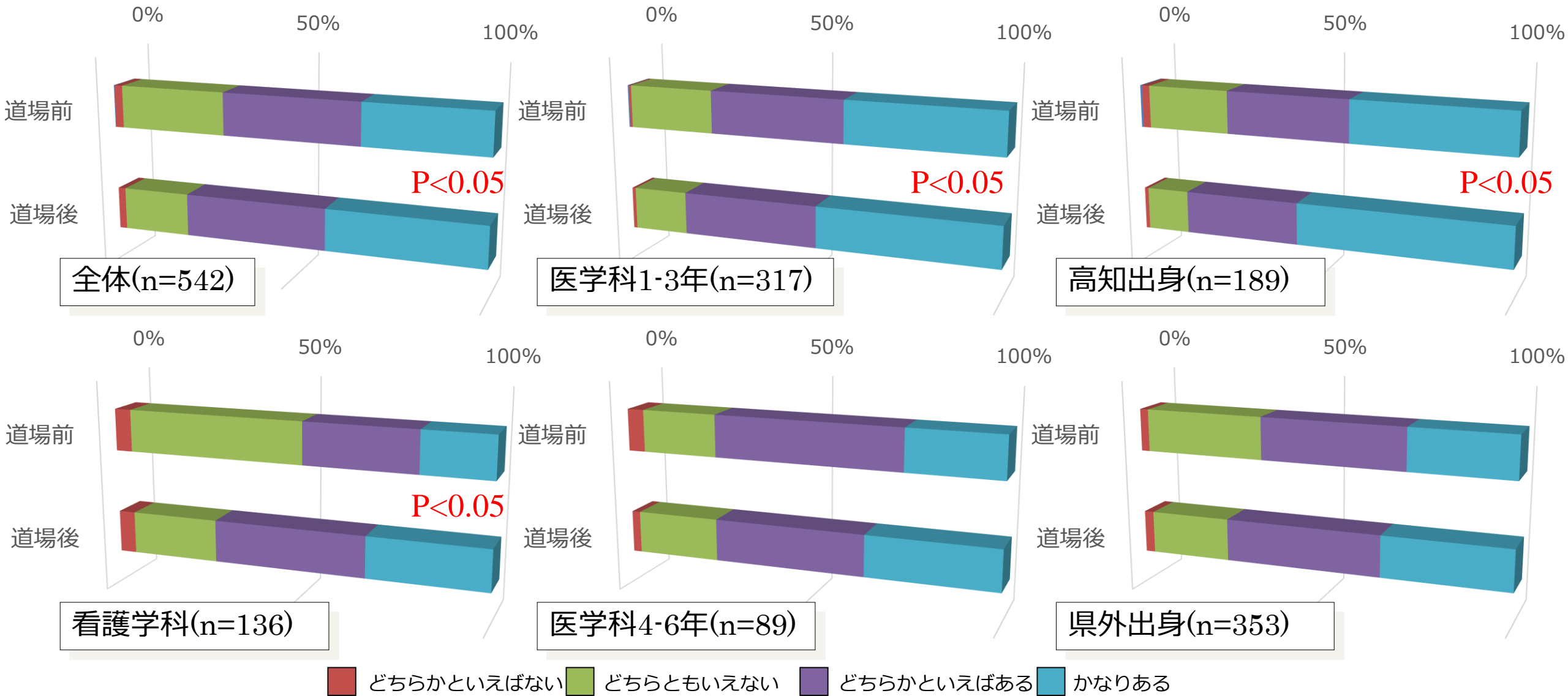
踊る

食べる



参加学生アンケート結果

「あなたが将来、地域で医師または看護師・保健師として勤務する可能性は？」

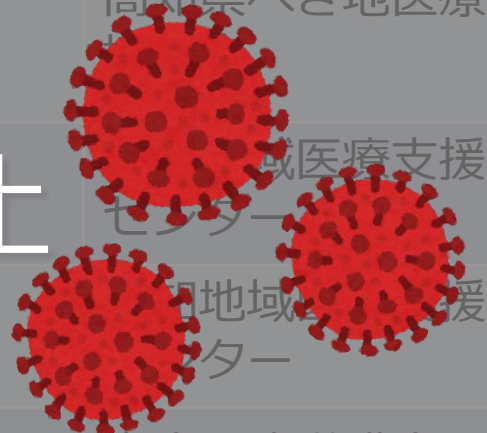


地域医療実習等 (5、6年生は対象外)

4年生まで、いずれかの実習を年1回以上受けて、レポートを提出

	実習名称	時期	対象者	主催者
①	高知県地域医療夏期実習	8月	SEED (他大学を含む) 自治医科大学学生	高知県へき地医療
②	幡多地域医療道場	8月	SEED (他大学を含む)	幡多地域医療支援センター
③	安芸地域医療道場	3月	SEED (他大学を含む)	安芸地域医療支援センター
④	家庭医道場	5、11月	医学科、看護学科一般	家庭医療学講座
⑤	その他自主的な実習			

2020～コロナ禍のため中止

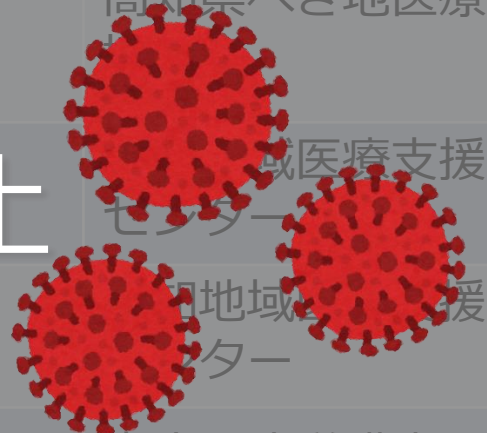


地域医療実習等 (5、6年生は対象外)

4年生まで、いずれかの実習を年1回以上受けて、レポートを提出

	実習名称	時期	対象者	主催者
①	高知県地域医療夏期実習	8月	SEED (他大学を含む) 自治医科大学学生	高知県へき地医療
②	幡多地域医療道場	8月	SEED (他大学を含む)	地域医療支援センター
③	安芸地域医療道場	3月	SEED (他大学を含む)	地域医療支援センター
④	家庭医道場	5、11月	医学科、看護学科一般	家庭医療学講座
⑤	地域医療オンラインシムposium	9月	SEED (他大学を含む) 自治医科大学学生	高知県へき地医療協議会/高知地域医療支援センター
⑥	個別地域医療実習	8、3月		
⑦	その他自主的な実習			

2020～コロナ禍のため中止



地域医療オンラインシンポジウム

2020/9/5

参加者 190人

(うちSEED学生75人、自治医大学生13人、県内中学・高校生78人、県内医療機関15人)



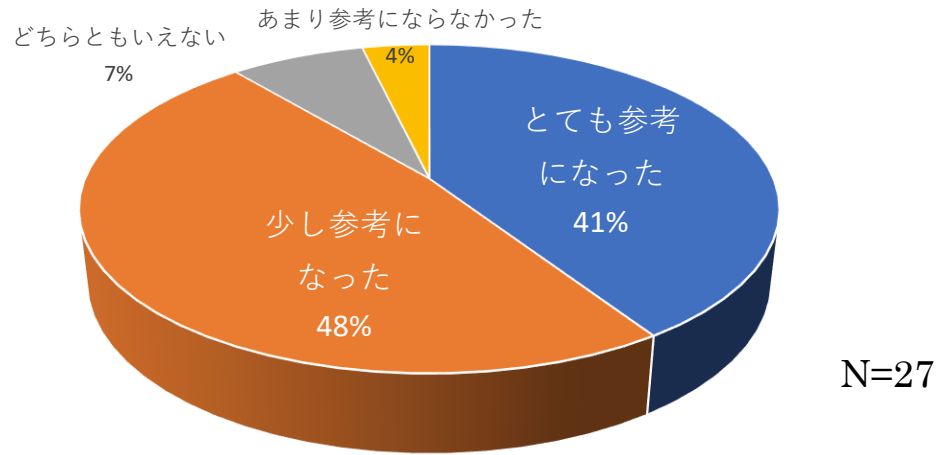
リモート参加

- 学生個人
- 県内医療機関
- 中学・高校

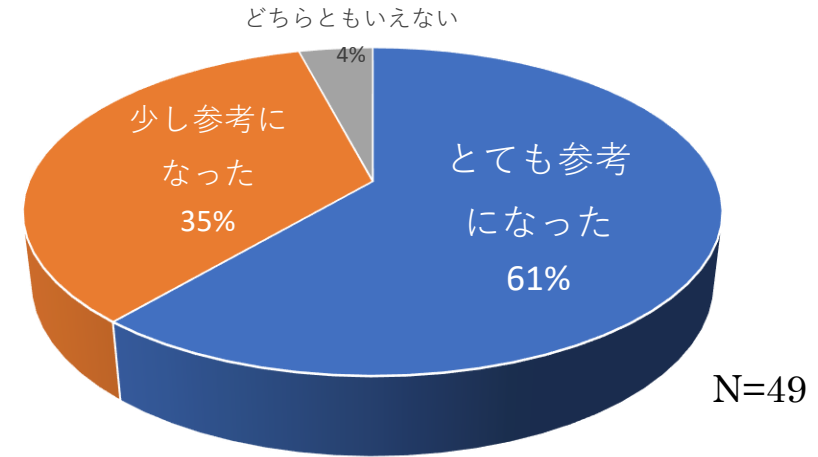
地域医療オンラインシンポジウム

2020/9/5

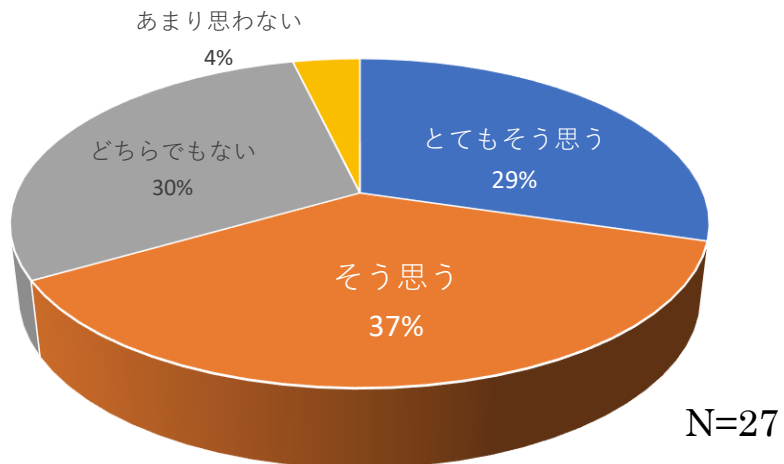
【中学・高校生】
進路選択の参考になった？



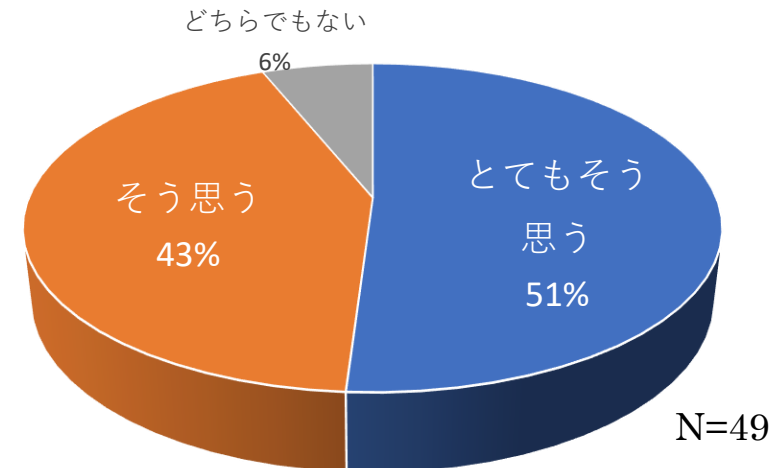
【医学生】
将来のキャリアの参考になった？



【中学・高校生】
将来、医師として高知県の地域医療に携わりたい？



【医学生】
将来、高知県の地域医療に携わる意欲が高まった？



今日のおはなし

- 地域枠学生のサポート
- 地域医療を体験しよう
- 地域の医療文化を創る



隠れたカリキュラム The Hidden Curriculum*

*Philip W. Jackson : “Life In Classrooms” (1968)



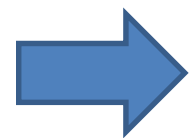
俺たちは自由だもんね
高知に居なきゃいけない
なんて可哀相だね

地域枠なんだ、大変だね
入学しやすいんでしょ？
やっぱり、お金？



意識していること

- 学生が誇りを持つように
- オール高知（大学、同窓会、地域の医師会、県行政など）で学生をサポート
- SEED学生・卒業生の縦横の繋がりを大切に
- 情報発信で県民の理解を得る
- 地域親和性の高い入学生を集める



新しい地域の医療の文化を創る！

実習を実施する目的

実習に参加してレポートを提出することは手段であって、
目的ではありません

夏休みに実習に行くので、最初、憂鬱だったんです。でも、とても楽しかったです♪友達に自慢したいと思います！





SEED
卒業医師

SEED
卒業医師



地域の医師会長
高知医科大学1期生

日帰り参加の教授
(片道2.5時間)



医学部長



卒業生
研修医

卒業生
研修医

SEED
学生

SEED
卒業生
研修医

卒業生
指導医

SEED
学生

SEED
学生

卒業生
指導医



実習のマスコミの取材

「明日の地域医療の種を蒔こう 高知で育つ医師」
30分間の特別番組 高知ローカルOA
DVDを制作し高校等に配布



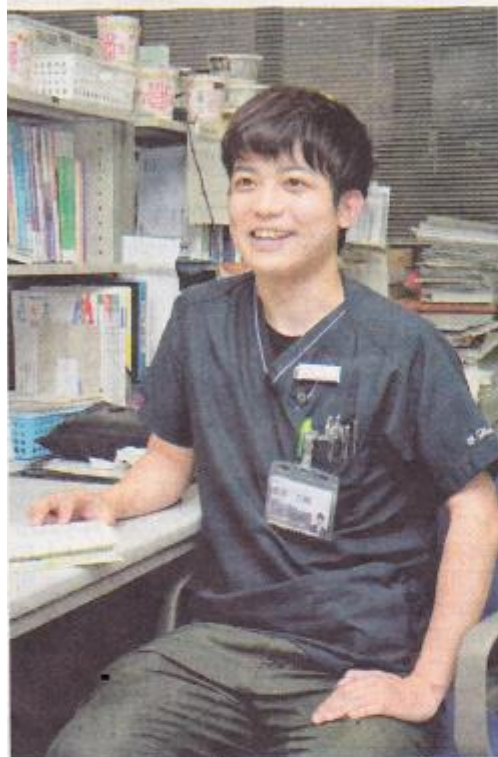
高知大学医学部附属病院 広報番組 おらんくの大学病院
#39 高知県の医療を支える若い医師の力 2021年3月14日OA

Webサイトから
ご覧いただけます



芽吹き始めた 種 SEED たち

県立幡多けんみん病院
橋本 大輔さん(32)



「患者さんが心配していることを受け止め、治療していきたい」と語る橋本大輔さん(宿毛市山奈町芳奈の県立幡多けんみん病院)

「思いほどく」「心掛け

卒業後、県内で働くことを選び、県の奨学金を受けて学んでいる学生たちは少なからず、「若いうちに地域に

出て大丈夫なのか」とるべとなっている。昨年9月、高知大学で開かれた「地域医療オンラインシンポジウム」医師6年目の橋本

大輔さん(32)＝県立幡多けんみん病院で働いた。外来、病棟救急、新型コロナウイルス対応に忙しい毎日を過ごし、先輩たち語り掛けた。

「診察では患者さんの背景を知ることが大切」学生時代に地域を見てほしい」

士佐清水市出身。然に囲まれて育ち、くには親戚がたくさいた。「お世話になっ

若手医師 県内増加

医師不足に苦しんできた本県で近年、若手医師が増加している。40歳未満の医師数は2014年調査の51人を底に、16年は52人、18年は51人と回復。県の奨学金を受給した医師が増えてきたことが大きな要因で、今後も増える見込みという。しかし、高知市、南国市以外の地域では医師不足が続いており、県は「医師の偏在解消にはあと10年かかる」としている。

少。高知大学は前年の16働く意思のある学生に対してから7人に減り、危機し、月額15万円を貸与。卒業後の状況となった。

この高知大ショック、関係貸与期間の1.5倍(31)は「急性期から慢性を受けただけは07年、医師(6年貸与の場合)は9年」期まで、地域で幅広く診療養成奨学金制度を創動務すれば金額免除されることのできる医師になり得た。卒業後に県内で、若手医師が定着りた」と話す。

偏在解消には「あと10年」

全国の医師数は2年連続で増加したが、新臨床研修制度で医師不足に厚生労働省が発表。足はさらに加速した。本県の40歳未満の医師数は、修業が地方の大学ではななく、記録のある1996年、都市部の病院を希望するの個人から減り続けてきた。40人台だった研修医採用は06年に36人に減



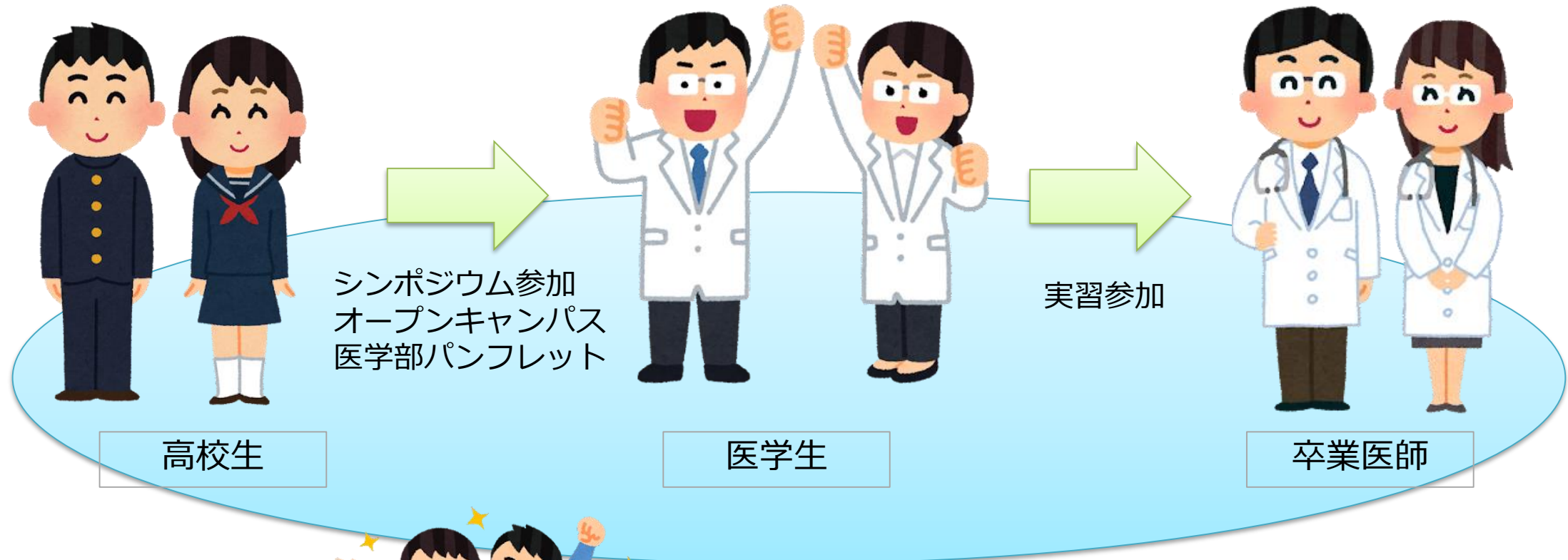
奨学金受給者が地域へ



高知大を卒業し、土佐市民病院で働く医師の富土田崇子さん。住民の暮らしを支えている(土佐市高岡町甲)

富土田 崇子 さん(32)は、高知大を卒業し、土佐市民病院で働く医師。住民の暮らしを支えている(土佐市高岡町甲)

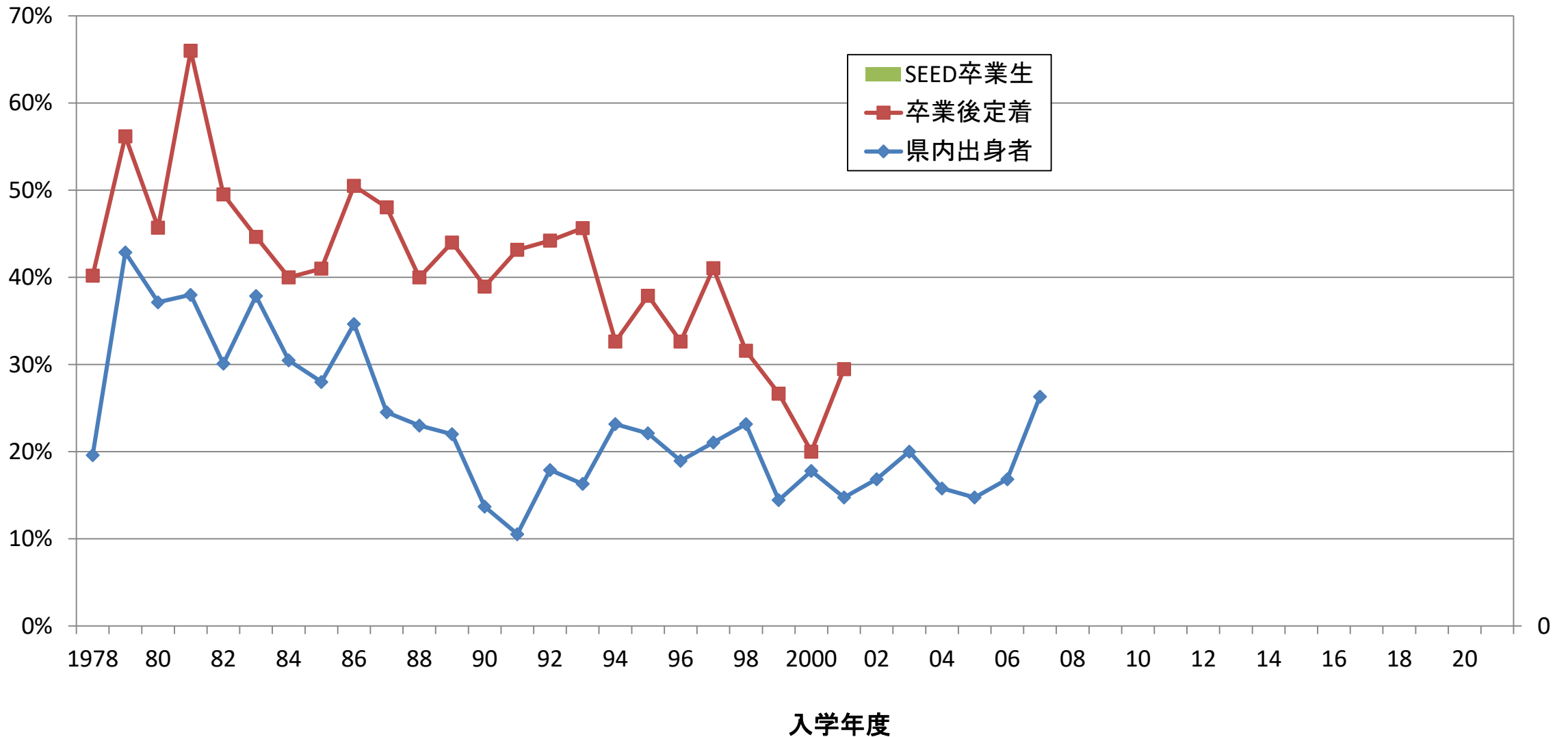
人のつながりを文化に



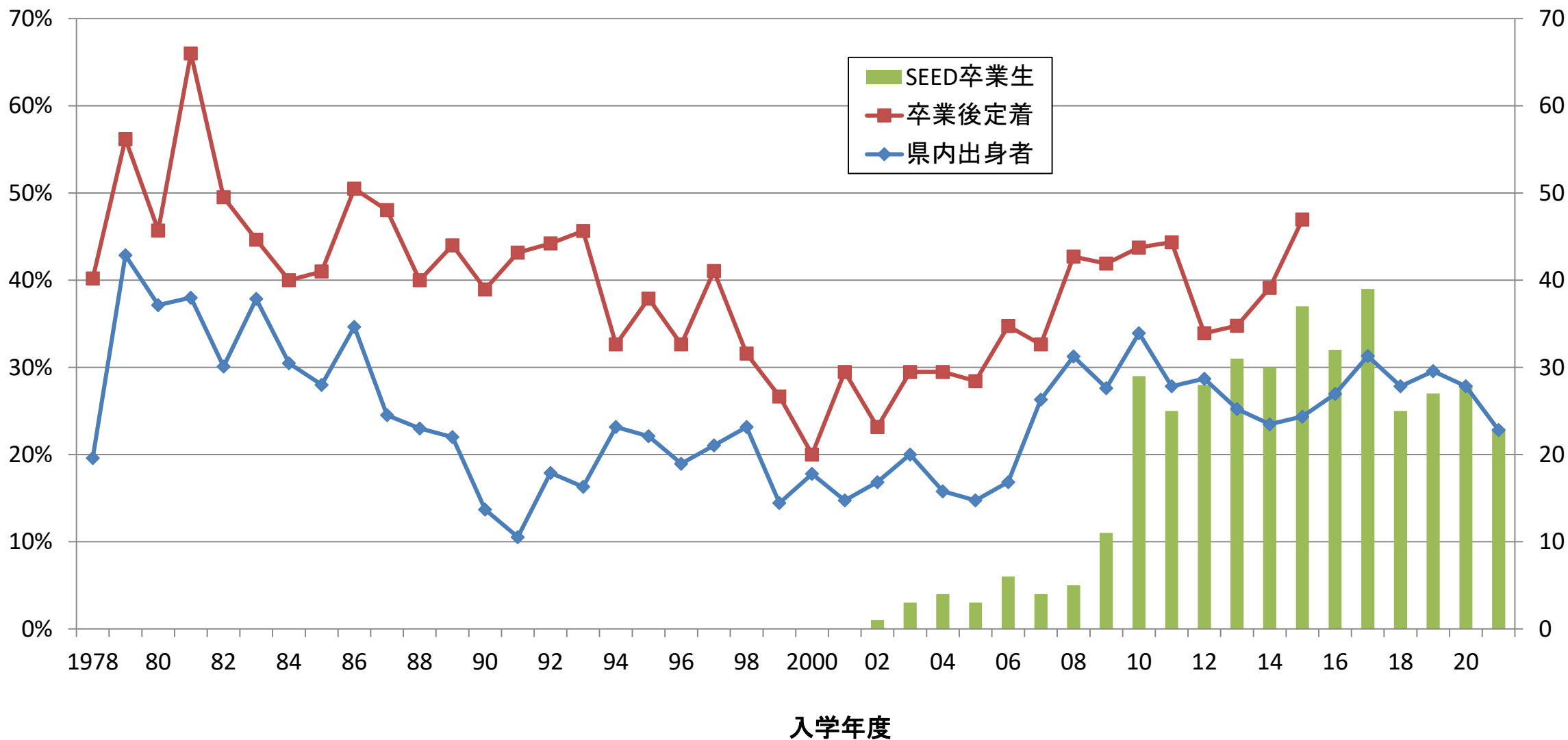
医療政策研修会



高知県出身者割合と卒業後県内定着率



高知県出身者割合と卒業後県内定着率



ご清聴いただき
有難うございました

